○７月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」・夏の「郷土に学び・育む青少年運動」（７月１日～８月３１日）　○７月の人権に関する週間　鹿児島県男女共同参画週間（７月２５日～３１日）

十島村教育委員会だより　令和元年６月号

さわやかトカラ情報

南北１６０㎞　「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

6月・・・ユネスコ無形文化遺産登録記念式典

十島村教育委員会
教育長　有村　孝一

Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage
The Intergovernmental Committee for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage has inscribed
Raiho-shin, ritual visits of deities in masks and costumes
on the Representative List of the Intangible Cultural Heritage of Humanity upon the proposal of Japan
Date of inscription
29 November 2018
Director-General of UNESCO

「悪石島のボゼ」が昨年11月29日にユネスコの文化遺産に登録されました。それを受けて令和元年5月27日に文化庁において「認定書伝達式」が行われました。ユネスコからの認定書は、国に一つであるため、今回はレプリカの授与となりました。悪石島保存会に一枚、十島村役場に一枚いただきました。それぞれ公民館と村長室に飾ってあります。それに文化庁からの証明書もいただきました。

6月1日には、悪石島においてユネスコ無形文化遺産登録記念式典が開催されました。文化庁からお二人、県教育委員会から東條教育長他お一人、それに川野村文化財保護審議委員会長に来賓としておいでいただきました。

初めに「悪石島の盆踊り」の披露があり、それが終わると、掛け声とともに、ボゼの出現がありました。会場は一挙に盛り上がり歓声の渦が巻き起こりました。その後、式典へと移りました。

式典は、文化庁の方からユネスコ登録のレプリカの認定書伝達があり、文化庁からの証明書が渡されました。参列した悪石島の人々は、大喜びでした。

有川保存会長は、「先祖代々続いているボゼは、地元の誇りであり宝です。毎年行っている盆行事がユネスコ文化遺産に登録され身の引き締まる思いです。」と述べられました。また、肥後村長は、「今回の登録については、悪石島のみならず、十島村民全体の喜びとするところであります。悪石島の人々が長年にわたり守り、伝承してきた行事が、世界から認められたということは、大変すばらしいことです。」などと、話されました。

式典の後は、川野会長による「ボゼ」についての講演です。南洋の方面から、ラオスを経て日本へたどり着いたのではないかという興味深いお話でありました。

ボゼツアーに参加されていました60人の方々も十分に楽しんでいただいたのではないでしょうか。奄美へ向かう船の中では、それぞれの皆さんが満足したような顔であったのが印象的でした。

名瀬に到着すると、記念祝賀会でした。皆さんが楽しく歓談している様子を見ていると、ほっとした気持ちになりました。当日は、大雨が予想されていましたが、雨に降られることもなく無事に終えることが出来ました。

人々は、口々に「ボゼ神」様のおかげでしたと話しておられました。

修学旅行で学んだこと

十島村立平島中学校　教頭　新田義明

６月２日，多くの島民に見送られ３３名の中学生が４泊５日の修学旅行に出発しました。

稲佐山，長崎原爆資料館，ハウステンボス，九州国立博物館，太宰府天満宮と有名な観光地を訪れました。日を重ね，思い出が増えるごとに，仲間たちとの友情は深まっていきます。

また，被爆者講話では，戦争の恐ろしさと悲惨さを学び，平和な世界を守っていくことを誓いました。

６月６日，たくさんの経験と出逢いの中でたくましく成長した子ども達が島に帰ってきました。満天の星空，早朝の鳴鳥，温かい人々，故郷十島村は，どの観光地にも負けていないことに改めて気づきました。

「県民の日」（７月１４日）

「県民の日」は，県民の皆さんが，鹿児島の歴史や文化などを見つめ直し，ふるさとを愛する心を育むことによって，自信と誇りにあふれる，より豊かな鹿児島を築き上げることを期する日です。鹿児島県が誕生した明治４年の廃藩置県の布告の日である７月１４日を「県民の日」としました。

第２０回全国障害者スポーツ大会
（燃ゆる感動かごしま大会）開催まで５００日！
（６月１２日現在）

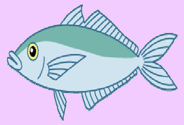
シリーズ　新聞に投稿
（令和元年５月２４日南日本新聞「若い目」掲載）
中之島小４年　藤谷　萌夏

まぐろ丼

「ご飯ですよ」とお母さんに呼ばれました。テーブルに着くと、今夜のご飯はまぐろ丼。島の人にもらったシビを、まぐろ丼にしてくれました。まぐろ丼がおいしくてうれしくなったわたしは、テレビの食レポのまねをして、「マグロの宝石箱や。」と言って食べました。

それを見てお姉ちゃんとお兄ちゃんとお母さんは笑っていました。わたしは、「みんなで笑いながら食べるまぐろ丼は、悪くないなあ」と思いました。

家族みんなでにこにこしながら食べられておいしかったです。また食べたいです。



子供のうた（五／十五南日本新聞掲載）

ドスン

大きな音だった
乗りたいと思った一輪車
ずっと前の学校から乗りた
かった
でも昨日まで少しも乗れな
かった
「今日こそは」とちかった
一回目　二秒くらいこげた
もっと勢いをつけて二回目
はでにしりもちをついた
あれからも
ずっと練習している
負けない心に火がついたか
ら
（平島小六年　新田　真子）

シリーズ　新聞に投稿
（令和元年６月４日「若い目」南日本新聞掲載）
小宝島小2年　三浦　和奏

もっと乗りたいな

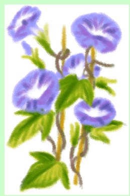
一りん車大会がありました。小だからじまに来てはじめての大会です。コースは、こだから園おり返しの２００メートルです。れんしゅうは、いっぱいしました。はじめは、乗れなかったけど、ちょっとずつ乗れるようになりました。校てい１しゅうにチャレンジしたら、２しゅうになって、ついに３しゅうも乗れました。うれしくて、うれしくてびっくりしました。いよいよ一りんしゃ大会です。目ひょうは、１ぷんです。わたしのじゅん番が来ました。ドキドキしながら一りん車に乗りました。きろくは１ぷん５３びょうでした。足はフラフラ、体はあつくなりました。し走のときは２ふん４０びょうだったので、ちょっとだけはやくなりました。すごくつかれました。来年は、地ぞうかどおり返し４８１メートルにチャレンジしたいです。

子供のうた（六／五南日本新聞掲載）

あさがおのたね

あさがおのたねって
おつきさまみたい
かたちがみかづきみたい

たねをまいたら
どんなはながさくのかな
おつきさまみたいに
ぴかぴかひかるはなが
さくといいな
（宝島小一年　松元　佳澄）

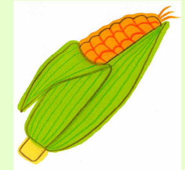


【諏訪之瀬島小・中学校からのメッセージ】
教諭　米盛　麗美

諏訪之瀬島での１年を通して

「壺田栄作の『二十四の瞳』のような小さな学校で教科指導したい」という希望が叶い，諏訪之瀬島に赴任して１年と少しが過ぎようとしています。私にとって，この１年は驚きと感動の連続であっという間でした。

１３歳から１５歳の生徒を約２０年対象にして仕事をしてきた私にとって，小学生ときには未就学児と毎日を過ごすことは，とても新鮮でした。特に，毎朝行う緑化活動は，私にとっても学びの時間です。あるときは，植えた野菜の収穫に「わあ」と声を上げる子供たち，あるときは成長途中のトウモロコシを逃げた牛に食べられ，本気で悔しがる子供たちの一喜一憂する姿を見てほほえましく思っています。



島民の方からも，たくさんの優しさを感じると同時に，多くのことを学んでいます。どの子にも分け隔てなく声をかけたり，ときにはわが子のように叱ったりする姿は他ではなかなか見られません。子供を本当に島全体で愛情をそそぎ，育てているということを心から感じています。

これからも，豊かな自然の中で子供たちとともに学んでいきたいと思います。

『教職員仲間であるあなた』への私からのメッセージ

十島で出会ったのも一つの縁だと思います。縁を大切にともに多くのことに触れ学んでいきましょう。

シリーズ・・・十島村で学ぶ
中之島中学校　１年　田中　流桜

今度は僕らが

「エッグハントをしよう。」この母の一言で、島で過ごすゴールデンウィーク十日間、初めは、室内でゲームをして過ごす予定しかなかった僕たちの状況が楽しい経験と変わった。

母は、イースター島のお祭りを参考に、卵型のプラスチックを通学路や学校などに隠し、連休中にそれを子ども達みんなで探してもらう企画を考えていたのだ。

ゲーム開始当日、バナナの木やつわぶきの葉の裏や草の間に、カラフルな卵たちがのぞけるように隠されていた。見つける楽しさもあったが、いつの間にか友だちと合流し必死に卵探しをし、疲れや暑さも忘れるぐらい夢中になっていた。

この期間、気付けばゲームをするよりエッグハントに夢中になる時間が長かった。また、地域の人も、卵を難しいところに移したり、一緒に探してくれたり、中には、ダミーの卵を作って協力したそうだ。結果として、この企画が、子どもたちは外で活動し、たくさんの地域の人たちとの触れ合いも生まれたのだ。参加者の一人として、僕は多くのことを学んだように思う。

今年、中学生になった。この経験は絶対いかしていきたい。卵を探すという単純な企画で、触れ合いや笑顔が生まれるなら、今度は、僕たちが楽しい企画をしてみんなに与えたい。